日本の美術

掛け軸・床の間？

宗派？

仏教？

仏像？

日本文化

消滅寸前

肉筆（手書きのコピー）

掛け軸の通信販売

肉筆による、唐詩と山水画名作選

定布限頒

千二百年の昔より、
私たちの祖先が、祖父や父が、
折りにふれて吟じ、心の糧とした——
杜甫、李白などの格調高い詩を——
その美しい自然（山水画）と共に再現!!
暫し混濁の現代を離れ、
あなたを遙かなる幽玄境に誘います

夫婦になるまで、また夫婦となってからの数食題目の次第を、一所懸命に絵に且つ復絵に写し出してあり、且つその虚飾も何のこだわりもなく極めて自然につけてある。所謂温柔敦厚の作と称すべきもの。李白は音通に転変の筆も以って知られており、恵婦の繊細な情感をこの絵に尽した作は珍らしい。

すいせんのことば

唐詩は東洋文学の珠玉であり、「中国文学は唐詩にはじまり唐詩に終る」と申しても過言ではない。また古来、山水画の真髄は、寸尺の間に千里万里を描く処にあるといわれ、唐詩と山水画はまさに不離一体のものである。

中国の一流書画家の肉筆になるこの優れた企画によって、千数百年の間東洋人の心に受けつがれた秀れた唐詩を、文学だけで理解するに止まらずそれを題材とした美しい山水画と共に鑑賞することができるのは、独り中国の詩文に心を寄せる者に限らず、ひろく文学・美術の愛好者にとって大きな喜びであろう。

詩聖・杜甫、詩仙・李白など天才たちの豊かな情感が、美しい大自然の中に香気を漂わせ無限にひろがるのを、心静かに味っていただきたい。

元早稲田大学教授
元津田塾大学教授　現　十女橘

（明治三九年生れ。昭和六年より昭和九年まで中国に留学の後早稲田大学教授。白楽天研究。他中国文学の著書が多い。）

千数百年の伝統に培れた中国の山水画

中国では山と水とが自然の二大要素と認められ、山水の語は大自然を意味し、名山大川の崇敬は山水画にその主題を提供した。自然の美を詠じる叙景詩は既に六朝時代に萌芽し、咫尺千里と称せられる遠近法が、西洋よりも10世紀も早く用いられた。唐代に「呉道玄」が更に写実的なものとし、宋代には、「李成」などが三遠の観念を確立、宋代に於ける中国画史の主流が、常に山水画の中でその発展を示し、明代に至り、文徴明らが南宋画を完成した。

現品は先にお届け、申し込みは官製ハガキで！

20円
〒651-00
神戸市兵庫区荒田町通一丁目二番地
(株)サンレイ インターナショナル
大阪・太郎殿・係

(1)山水画番号
(2)唐詩名
(3)注文数
(4)お支払の方法（一括払いまたは分割／お支払いの別）
ご住所　〒　様
おなまえ　様
でんわ

- ご注文は官製ハガキに、左の要領で、山水画番号、唐詩名、注文数、価格、一括お支払いまたは分割払いの別、ご芳名、住所、電話等をハッキリとご記入下さい。
- 現品は先にお届けします。お代金はお届けの品をよくお確めの上、現品と同送の振替用紙でお願いします。
- 梱包・送料は一切当方で負担しますが、万一郵送途上の破損の場合はすぐにお取替えいたします。
- ご注文の品は約3週間でお届けします。返品交換に伴う一切の費用は当方にて負担します。万一品物にご不満の節は、現品到着後10日以内にご返品ください。

企画・発売
(株)サンレイ・インターナショナル　美術部
本社　神戸市兵庫区荒田町通1-2-3 興進ビル　☎(078)251-8471(代)
支店　東京都千代田区麹町4-1-4 西脇ビル　☎(03)265-5757(代)

掛軸寸法　180cm×52cm(約)
画　家　張遠興
現金価格　54,000円
分割払(8,300円×7回)

長干行（李白）
妾髪初覆額　同居長干里
折花門前劇　両小無嫌猜
郎騎竹馬来　十四為君婦
繞牀弄青梅　羞顔未嘗開
低頭向暗壁　千喚不一回
十五始展眉　願同塵与灰
常存抱柱信　豈上望夫台
十六君遠行　瞿塘滟滪堆
五月不可触　猿声天上哀
門前遅行跡　一一生緑苔
苔深不能掃　落葉秋風早
八月蝴蝶黄　双飛西園草
感此傷姿心　相迎不道遠
坐愁紅顔老　直至長風沙
早晚下三巴　預将書報家

全て肉筆につき一点ずつ筆勢や濃淡が異ります。

水墨画

墨・筆 ↓ 精神性

禅

受身的では理解できない

周文　しゅうぶん　?―一四四八?　京都相国寺の都管（事務局）の職にあった。

水墨画・山水図

▲31伝周文　三益斎図　紙文　101.5×38.8cm

務局）の職にあった。

水墨画・山水図

水墨画 ・ 山水図

周文　しゅうぶん　?―一四四八?　京都相国寺の都管（事務局）の職にあった。

ハードなビジネスマンが
アウトドア雑誌を見て
こころを**癒す**ようなもの

水墨・花鳥図　（牡丹）

牧谿（もっけい）

南宗時代1250年ごろ

速水御舟

昭和９年

詩画軸

絵をもとに
詩を詠んだ

雪舟が描いた絵

◀52 雪舟　山水図　重文　88.3×45.6cm

詩画軸

「柴門新月図」

国宝

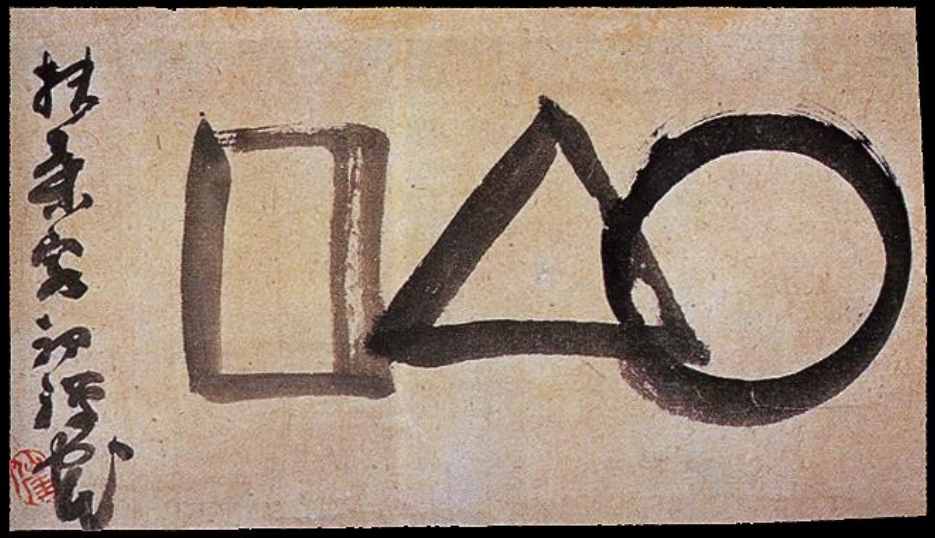
1405頃

序と18人の禅僧による題詩

杜甫「南隣」

「白沙翠竹江村の暮れ、
相送れば柴門に月色新たなり」

仙崖義梵



「○△□」

「座禅蛙」

何かめでたい言葉を

←

「祖死父死子死孫死」

仙崖義梵

臨機応変・当意即妙

禅の問答

牧谿
もっけい

「老子図」
南宗時代　岡山県立美術館

へんなオッサン
鼻毛の老子

◀32雪舟　山水図　重文　88.3×45.6cm

周文　しゅうぶん　？―一四四八？　京都相国寺の都管（事務局）の職にあった。

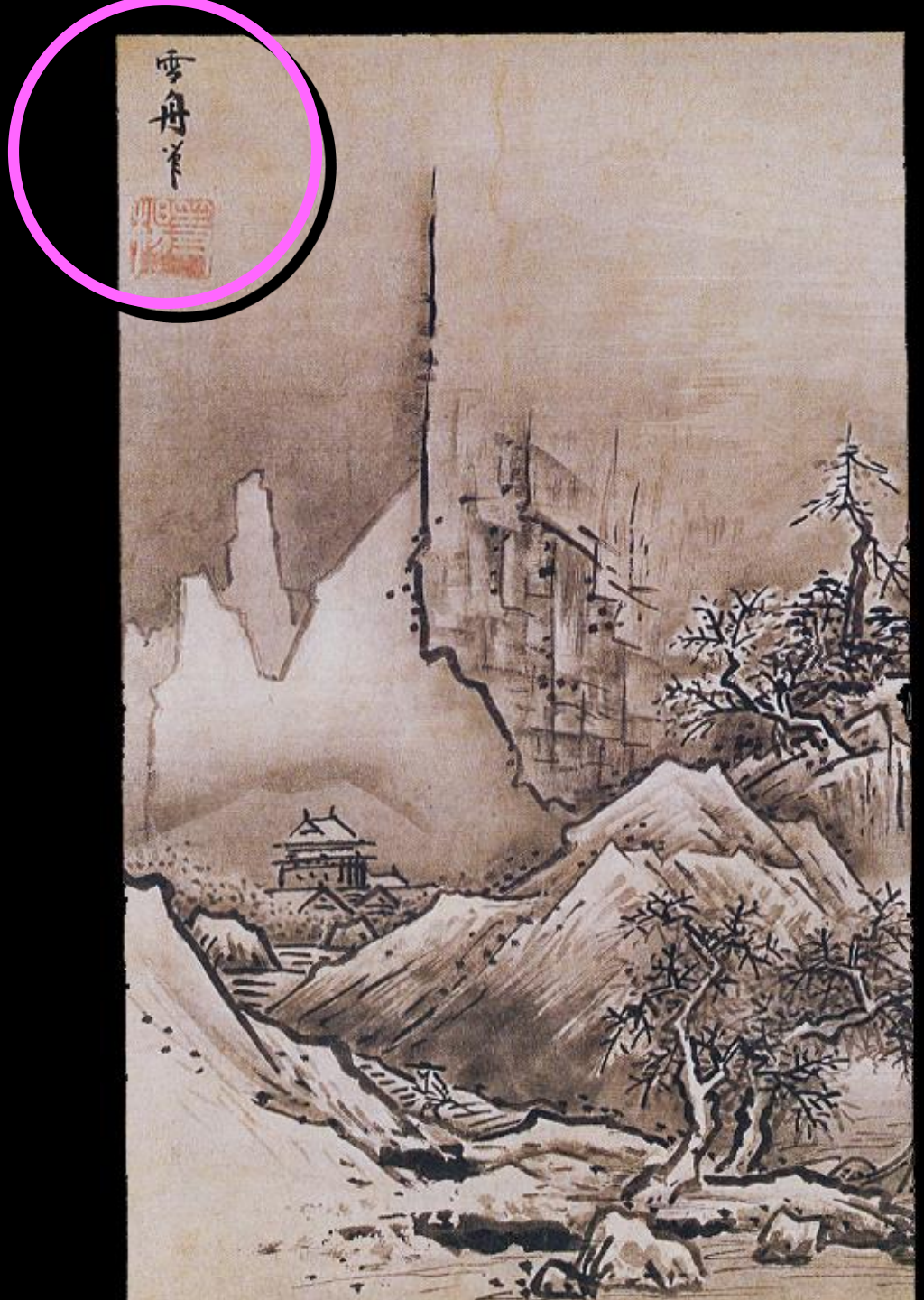
▲31伝周文　三益斎図　重文　101.5×38.8cm

頂相ちんぞう

（師の自画像）＝免許皆伝

雪舟の71歳の時の自画像。
弟子に与えた自画像の写し

雪舟は日本の作家の中で
初めて、個人が特定できる作家



名前を入れる習慣がなかった

雪舟の名前は何か？

「雪舟等楊」

雪舟＝号

等楊＝諱（本名）

中国文化としての水墨画

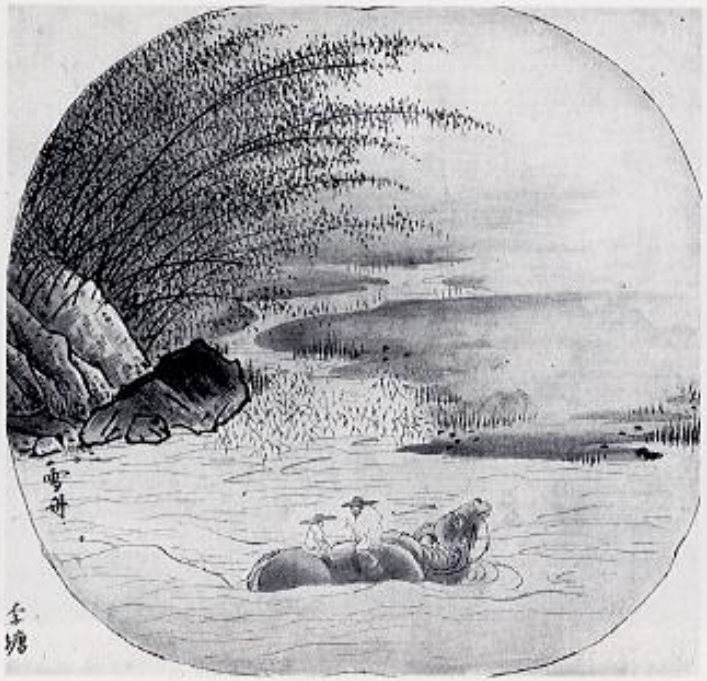
- 水墨＝８世紀ごろ中国の発明
- 室町時代になると盛んに描かれる。

●**唐絵**　＝　ステータス

夏珪・馬遠・梁楷・牧谿

李塘

▲第62図　放牛図　仿李塘　雪舟筆（山口県立美術館）



▲第60図　放牛図　仿李塘　雪舟筆（山口県立美術館）

李塘

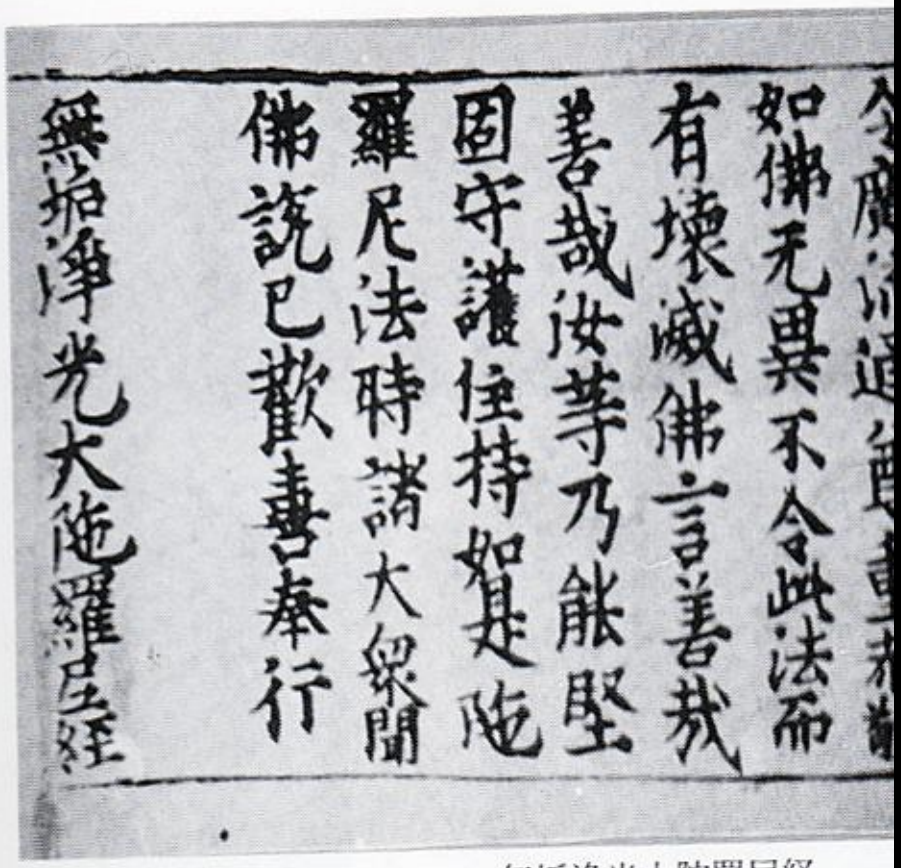
梁楷

玉澗

雪舟の価値

日本的水墨画の完成

どちらが中国製？

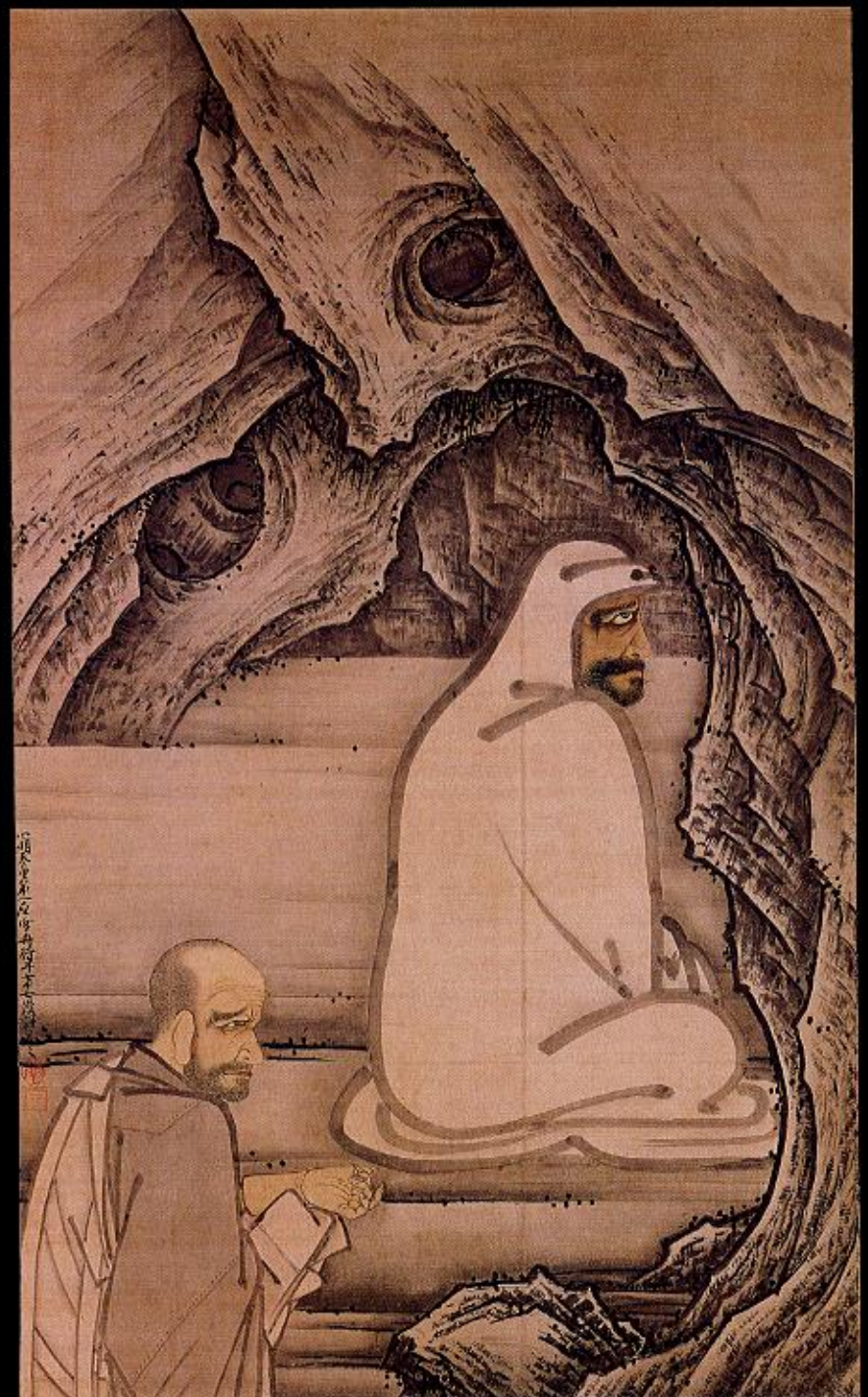


如佛无異不令此法而
有壞滅佛言善哉
善哉汝等乃能堅
固守護住持是陀
羅尼法時諸大衆聞
佛說已歡喜奉行
無垢淨光大陀羅尼經

104　無垢浄光大陀羅尼経

日本的表現

曲線的、情緒的



雪舟　慧可断臂図」

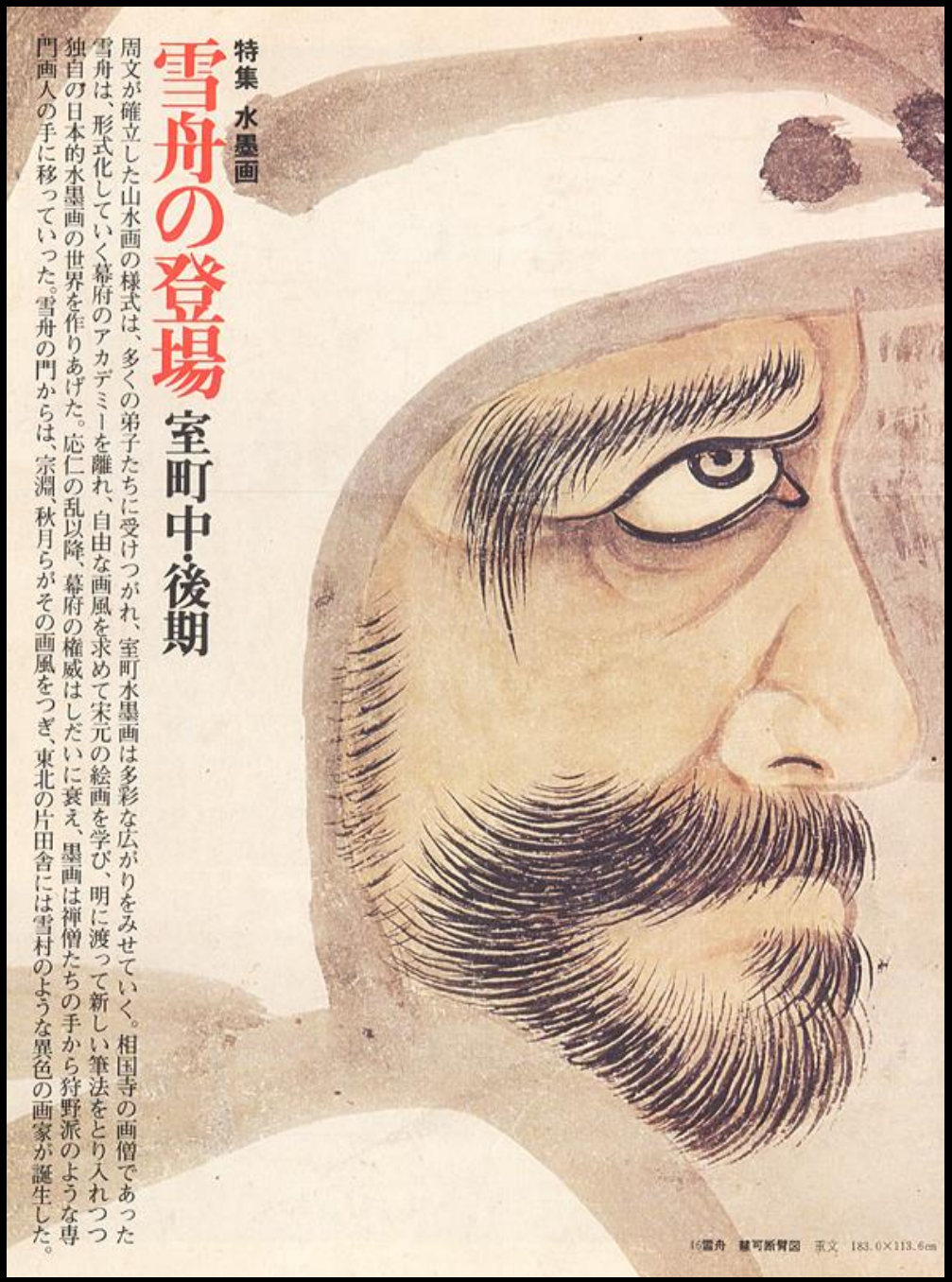
ダルマ

特集 水墨画

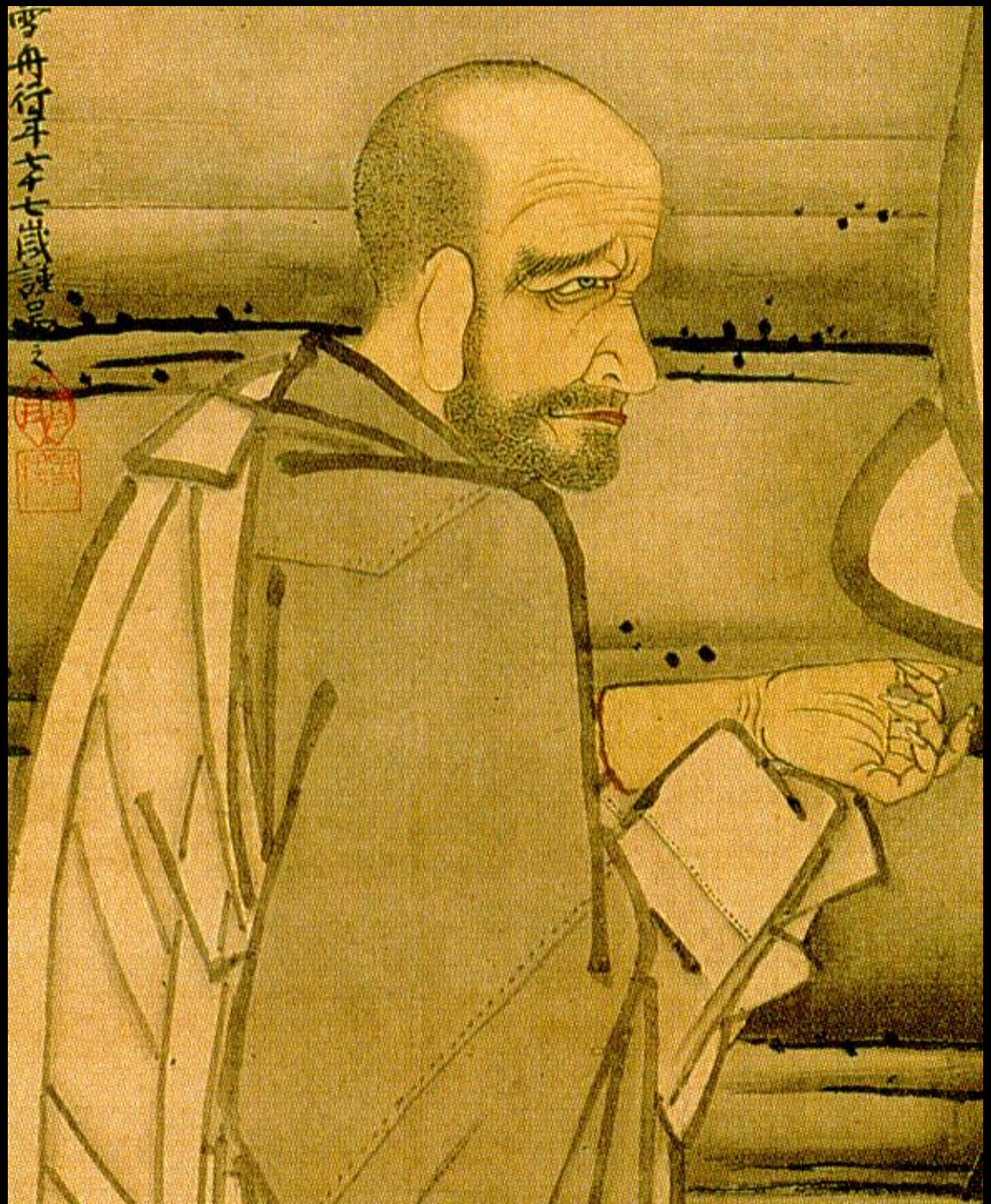
雪舟の登場

室町中・後期

周文が確立した山水画の様式は、多くの弟子たちに受けつがれ、室町水墨画は多彩な広がりをみせていく。相国寺の画僧であった雪舟は、形式化していく幕府のアカデミーを離れ、自由な画風を求めて宋元の絵画を学び、明に渡って新しい筆法をとり入れつつ独自の日本的水墨画の世界を作りあげた。応仁の乱以降、幕府の権威はしだいに衰え、墨画は禅僧たちの手から狩野派のような専門画人の手に移っていった。雪舟の門からは、宗淵、秋月らがその画風をつぎ、東北の片田舎には雪村のような異色の画家が誕生した。

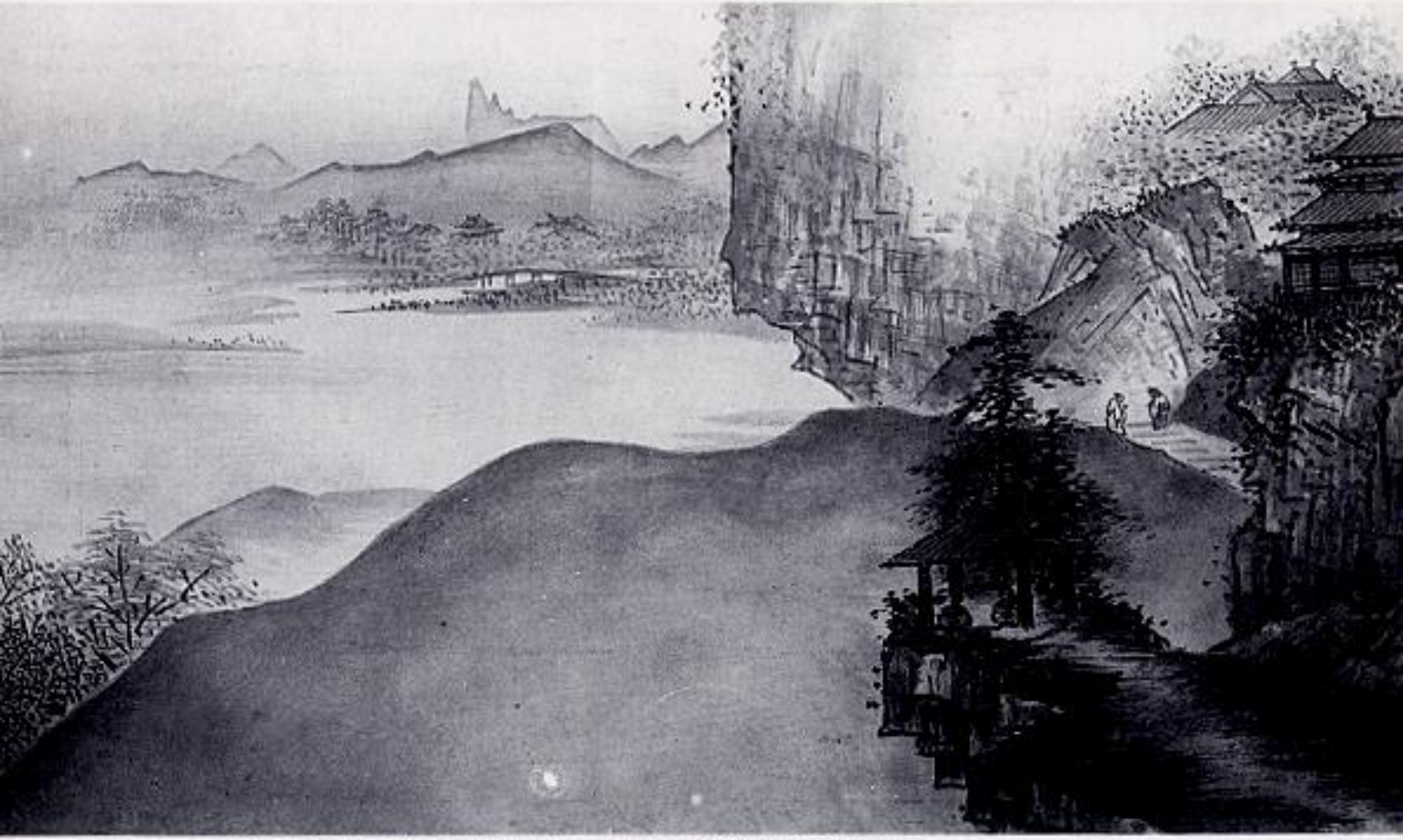


16雪舟 慧可断臂図 永文 183.0×113.6cm



雪舟　慧可断臂図」

雪舟　秋冬山水図」



◀▲第108図　四季山水図巻（山水長巻）　雪舟筆（毛利博物館）

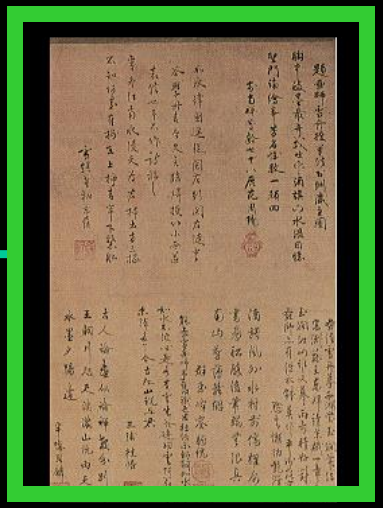
雪舟

「破墨山水図」

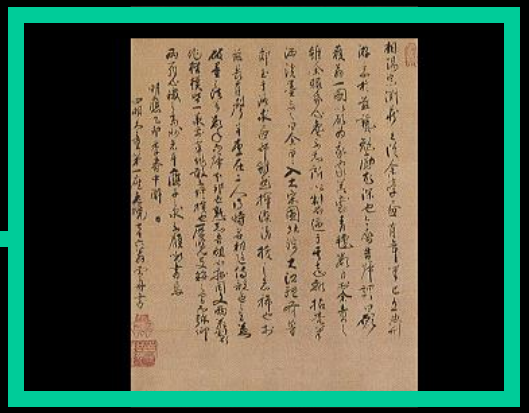
雪舟

「破墨山水図」

京都五山の僧の感想
＝賛



雪舟自筆の文章
＝自賛



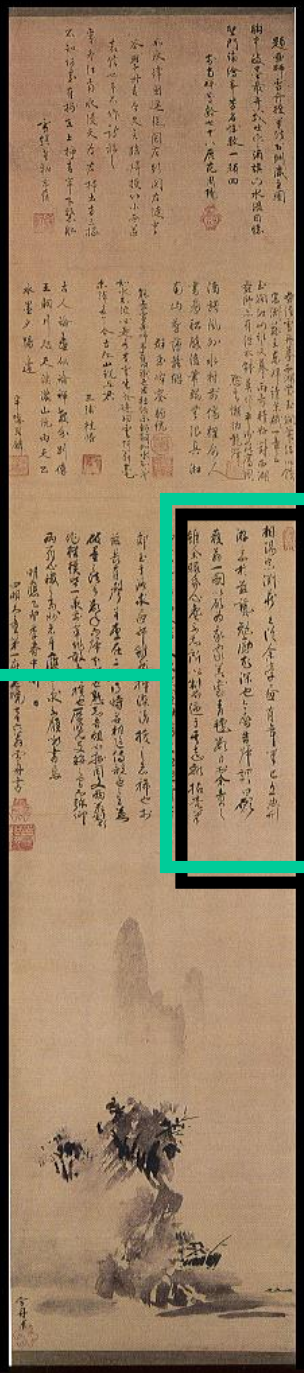
雪舟が描いた絵 →

雪舟

「破墨山水図」

「相陽の宗淵は、私について画を何年も学んだ。既に基本はマスターしている。自由に絵を描き、いかにも勉強熱心である。今年の春「国に帰る」と言って、その彼の言うことには、「先生の絵が1点ほしいのです、それを私のところの代々続く家宝にしたいのです」

そう何日も私にせがんだ。私は老眼だし頭もぼけて、そういうことのやり方は知らないのだけれども、彼の志に押されて、それでまァ、先のすり切れた筆を持つて、淡墨をそそいで、これを与えてゝこう言つたのである・

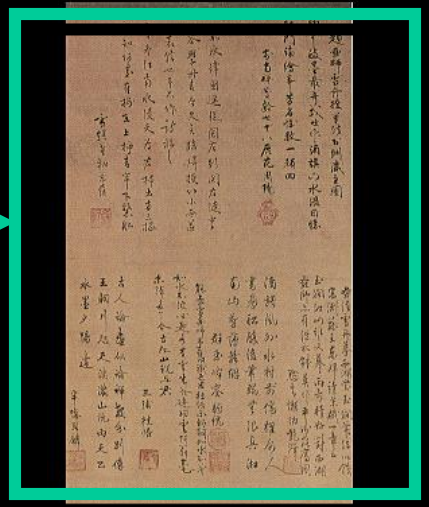


「私はかつて偉大なる宋の国へ行った。大河を北へ渡り、北京へ着き、そこで絵の先生を探した。そうはしたんだけれども抜群の人はいなかった。その中で、長有声と李在の二人が、世間ではいいということになっていた。入門して、色づけのポイントを教わった。破墨のやり方も同時にである。数年たって我が国に帰った。私の絵の親（祖）である如拙・周文両先生の描いたお手本は、すべて先人の作を正しく受けていて、これになにかを付け加えたり文句を言う必要のないことが非常によく分かった。日本と中国を見て回り、両先生の見識の高さと精神性の深さをますます尊敬するようになつたのだ。弟子が書けと言うので、笑われるのを承知で書きました」

雪舟

「破墨山水図」

京都五山の僧の感想
＝賛



雪舟自筆の文章
＝自賛

雪舟が描いた絵

雪舟

「破墨山水図」

雪舟による　倣玉澗

日本美術トップ10

日本美術トップ10

4位　阿修羅像

5位　風神雷神図屏風　俵屋宗達

6位　百済観音像

7位　伝源頼朝像　？

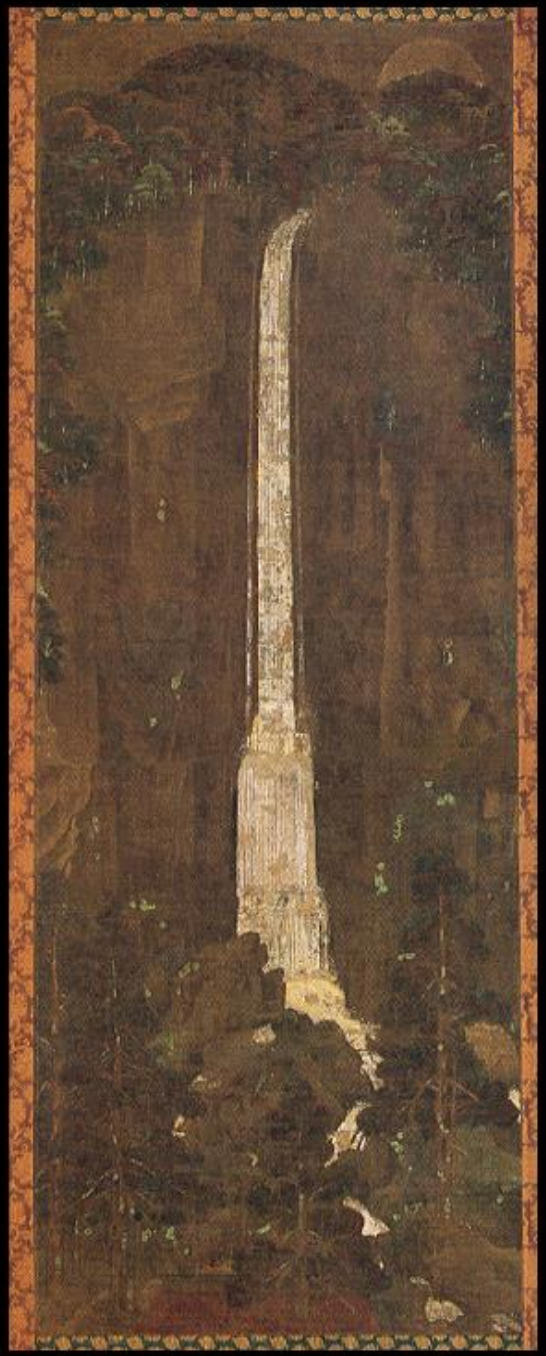
8位　源氏物語絵巻

9位　鳥獣戯画　鳥羽僧正？

10位　那智の瀧図

10位　那智の瀧図

熊野参詣
伊勢
伊勢神宮
伊勢路
琵琶湖
京都
熊野灘
淀川
吉野
紀ノ川
大峰山越え
大阪
熊野
紀伊路
高野山
小辺路
熊野速玉大社
大阪湾
那智の滝
熊野本宮大社
雲取越え
中辺路
熊野那智大社
和歌山
大辺路
田辺
0
20km



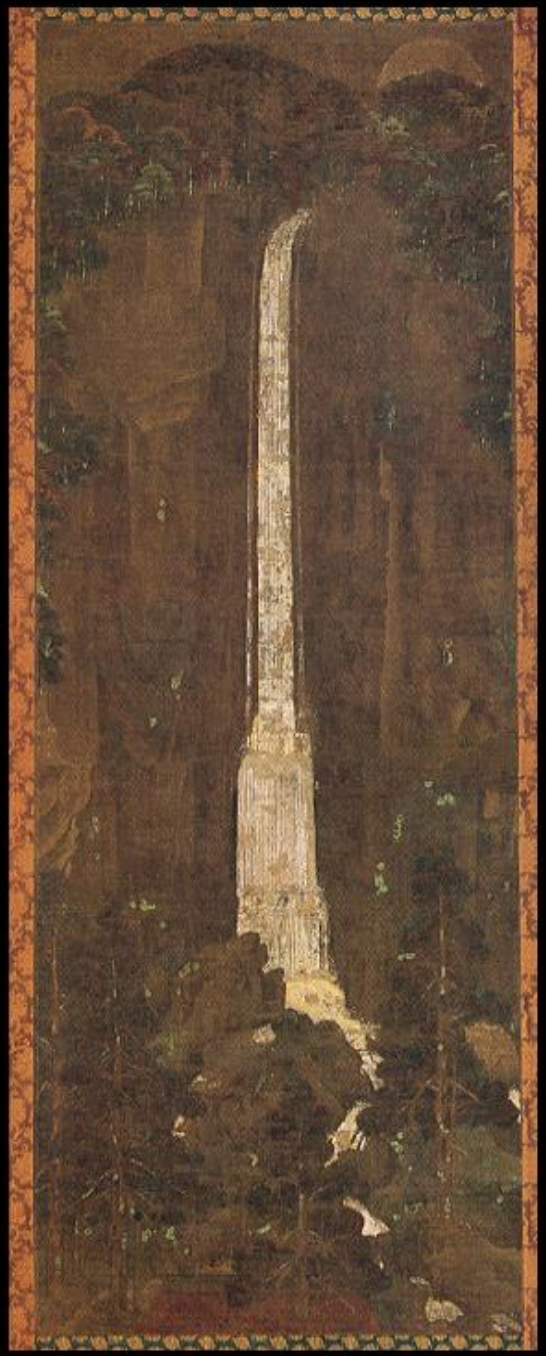
「那智瀧図」

鎌倉時代13世紀末160×59cm

（根津美術館蔵，国宝）

宗教画

飛瀧権現

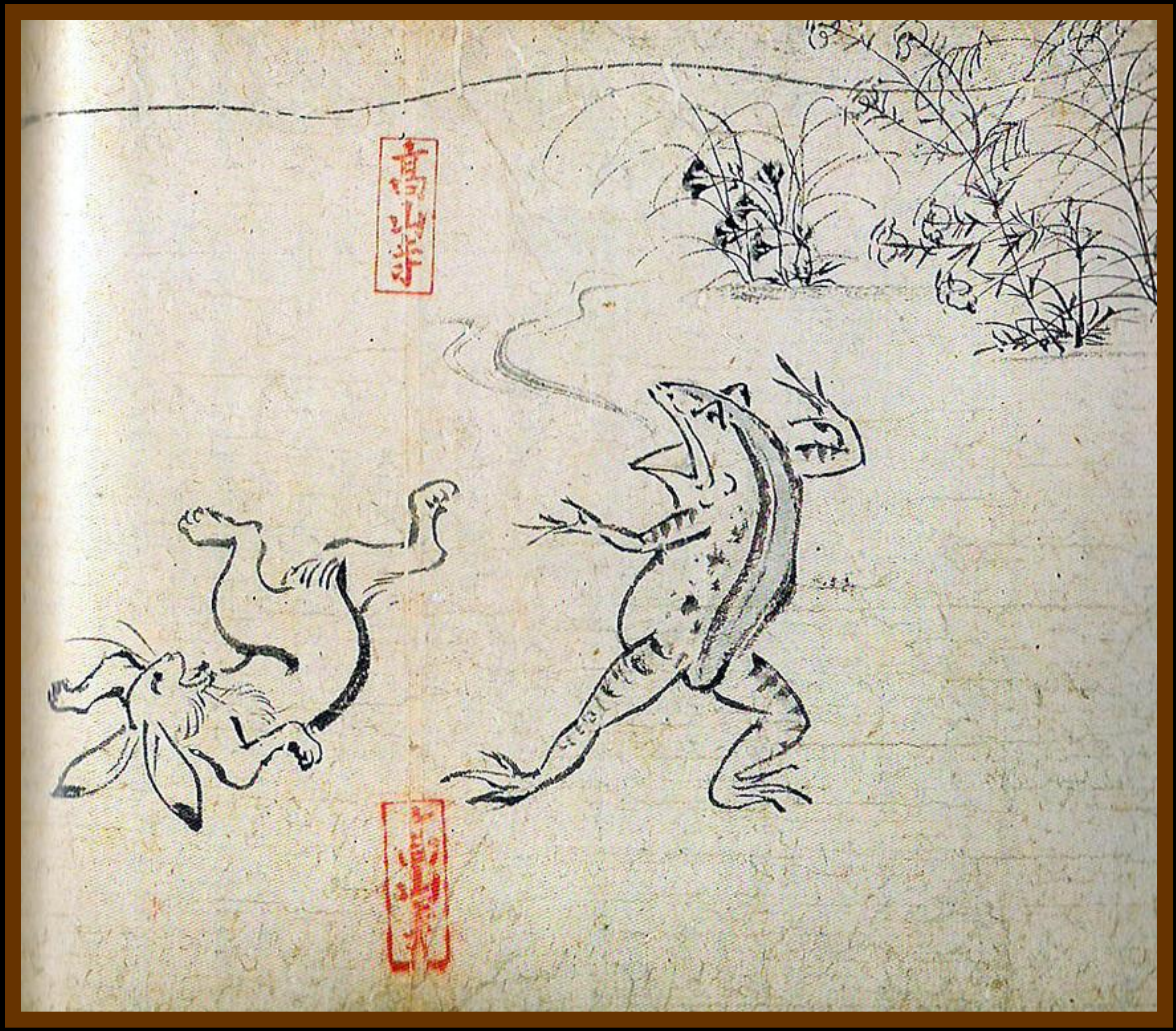


「那智瀧図」

鎌倉時代13世紀末160×59cm

（根津美術館蔵，国宝）

9位　鳥獣戯画　鳥羽僧正？



9位　鳥獣戯画　鳥羽僧正？

甲巻　たて３０センチ、横１１．５メートル

8位　源氏物語絵巻

2000
A302163E
日本銀行券
弐千円
日本銀行
2000
A302163E

NIPPON GINKO
2000
2000
2000YEN

7位　伝源頼朝像　？

6位　百済観音像

5位　風神雷神図屏風　俵屋宗達

4位　阿修羅像

邪神→ブッダの妨害→仏教に帰依

戦闘を好み，帝釈天（たいしゃくてん）と争う悪神

4位　阿修羅像

修羅場(闘いの場)　　阿修羅 ← アッシリア

3位　葛飾北斎　富嶽三十六景

3位　葛飾北斎　富嶽三十六景

2位　红白梅图屏風　尾形光琳

２位　紅白梅図屏風　尾形光琳

十八世紀前半

十七世紀前半

宗達

日本絵画の最高傑作

等伯　松林図屏風　六曲一双　東京国立博物館

長谷川等伯　「松林図屏風」

長谷川等伯　松林図屏風」

狩野派

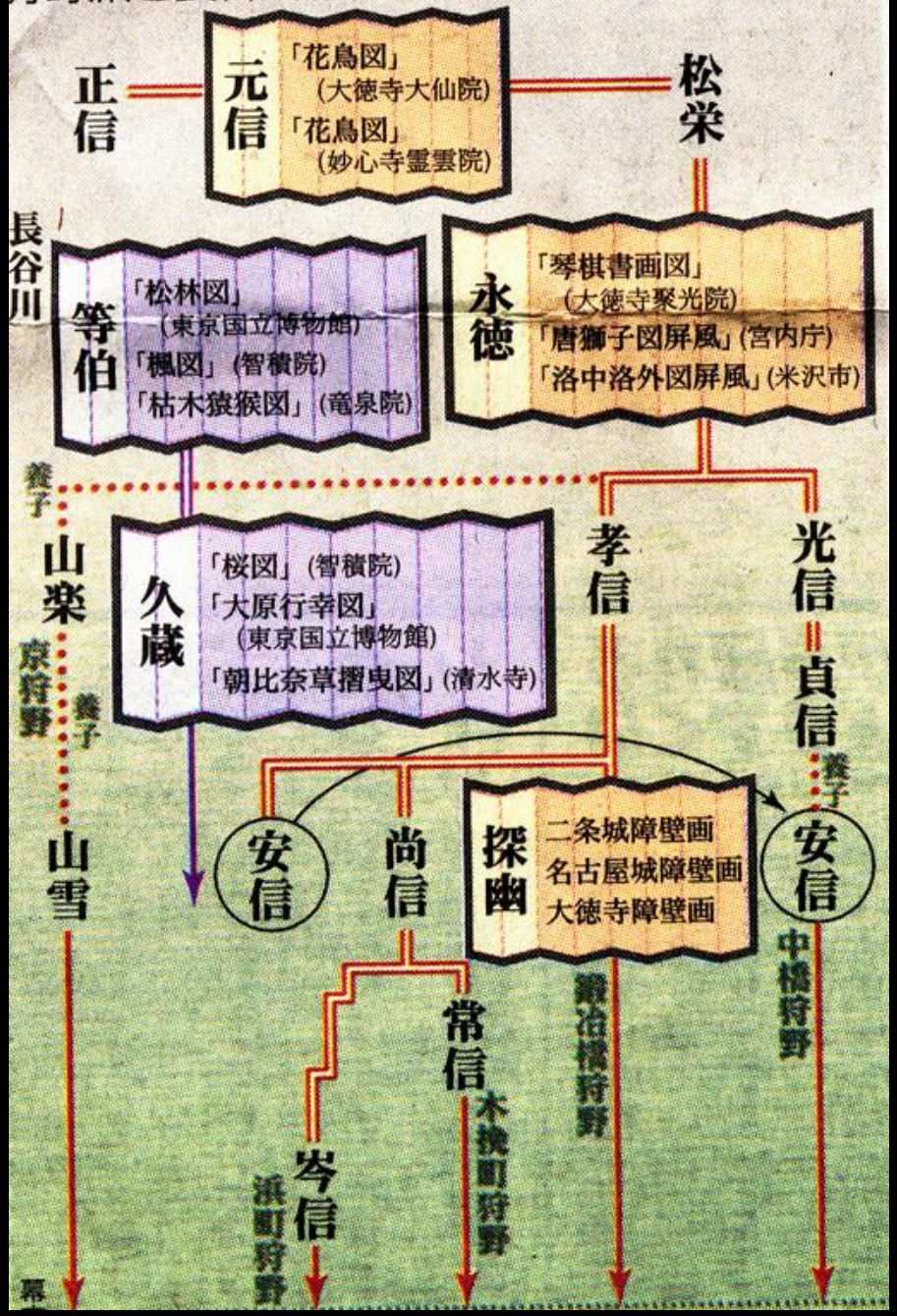
狩野永徳「唐獅子図屏風」　222.8×452.0cm　宮内庁
戦国武将好みの豪快な筆。「永徳大画」の典型だ

長谷川（父子）

長谷川 等伯 「楓図」

長谷川 久蔵 「桜図」

狩野派と長谷川派


正信
元信
「花鳥図」
(大徳寺大仙院)
「花鳥図」
(妙心寺霊雲院)
松栄
長谷川
等伯
「松林図」
(東京国立博物館)
「楓図」(智積院)
「枯木猿猴図」(竜泉院)
永徳
「琴棋書画図」
(大徳寺聚光院)
「唐獅子図屏風」(宮内庁)
「洛中洛外図屏風」(米沢市)
養子
山楽
京狩野
養子
山雪
久蔵
「桜図」(智積院)
「大原行幸図」
(東京国立博物館)
「朝比奈草摺曳図」(清水寺)
孝信
光信
貞信
養子
安信
尚信
探幽
二条城障壁画
名古屋城障壁画
大徳寺障壁画
安信
中橋狩野
常信
木挽町狩野
般若橋狩野
岑信
浜町狩野

日本絵画の最高傑作

等伯　松林図屏風　六曲一双　東京国立博物館

長谷川等伯　「松林図屏風」